

## ヘビギンポ科クロマスク属 *Helcogramma ishigakiensis* (Aoyagi, 1954) に適用すべき標準和名

田代郷国<sup>1</sup>・本村浩之<sup>2</sup>

<sup>1</sup> 〒 890-0065 鹿児島県鹿児島市郡元 1-21-30 鹿児島大学総合研究博物館（大学院連合農学研究所）

<sup>2</sup> 〒 890-0065 鹿児島県鹿児島市郡元 1-21-30 鹿児島大学総合研究博物館

### ■ はじめに

Tashiro and Motomura (2014) は、これまで *Helcogramma inclinata* (Fowler, 1946) の新参異名とされていた *Lepidoblennius marmoratus ishigakiensis* がヘビギンポ科クロマスク属の有効種 (*Helcogramma ishigakiensis*; Fig. 1A-B) であることを明らかにし、ホロタイプ (YCM-P 31283, 標準体長 46.7 mm) と奄美大島以南の琉球列島から得られた本種と同定される標本 41 個体 (標準体長 26.1-53.3 mm) に基づき再記載を行った。*Helcogramma ishigakiensis* は第 2 背鰭棘数が 13-15 (最頻値 14), 有孔側線鱗数が 28-39 (35), 下顎の感覚孔配置が 4-5 + 1 + 4-6, 前鼻孔の皮弁が不分枝, 眼上皮弁が単尖頭, 第 1 背鰭前方に被鱗域がない, および婚姻色を呈した雄の背鰭基底付近と尾鰭が赤色であるなどの特徴から同属他種と識別される (Tashiro and Motomura, 2014)。また, 彼らは *H. ishigakiensis* に適用すべき標準和名を「ベニモンヘビギンポ」とした。本種は長らく正体不明であったことから, 適用すべき標準和名に混乱が見られた。本稿では *H. ishigakiensis* に対するベニモンヘビギンポの適用に関する経緯について述べる。本稿で言及した機関略号 KAUM と YCM の標本はそれぞれ鹿児島大学総合研究博物

館と横須賀市自然・人文博物館に保管されている。

### ■ 標準和名ベニモンヘビギンポの適用

青柳 (1954) は *Lepidoblennius marmoratus ishigakiensis* を石垣島から採集された 1 個体に基づき新亜種として記載したが, 本種に和名を付記しなかった。その後, 松原 (1955) は *Lepidoblennius marmoratus ishigakiensis* を有効種として認め, 本種に対し新和名アヤヘビギンポを提唱した。益田ほか (1975) は石垣島から得られた *Helcogramma* sp. 2 に対し仮称ベニモンヘビギンポを提唱した。吉野 (1984) は *L. m. ishigakiensis* と益田ほか (1975) の *Helcogramma* sp. 2 を同種と考え, 「アヤヘビギンポ (ベニモンヘビギンポ)」として報告した。

一方, Hayashi (1995) は *L. m. ishigakiensis* と林 (1993) のカスリヘビギンポ *Helcogramma* sp. を同種として扱った。その後, Fricke (1997) や林 (2000) は下顎が突出する特徴をもつ林 (1993) のカスリヘビギンポ *Helcogramma* sp. を *Ucla xenogrammus* Holleman, 1993 と同定した。なお, *H. ishigakiensis* はカスリヘビギンポ *U. xenogrammus* と比較し, 下顎が突出しない (*U. xenogrammus* では顕著に突出する) ことから容易に識別可能である (Fricke, 1997; Tashiro and Motomura, 2014)。

Fricke (1997) はタイプ標本を含めた検討を行わずに *L. m. ishigakiensis* を *H. inclinata* の新参異名とし, 下顎中央の感覚管開孔数が 5-10 個である *H. inclinata* の日本名をアヤヘビギンポとした。一方, 林 (2000) と Hayashi (2002) はアヤヘビギンポの学名を *H. ellioti* とした。しかし, これはアヤヘビギンポが *H. inclinata* であると報告した Fricke

Tashiro, S. and H. Motomura. 2015. Assessment of standard Japanese name for *Helcogramma ishigakiensis* (Perciformes: Tripterygiidae). *Nature of Kagoshima* 41: 307-309.

✉ ST: the United Graduate School of Agricultural Sciences, Kagoshima University, 1-21-24 Korimoto, Kagoshima 890-0065, Japan (e-mail: k0587888@kadai.jp).

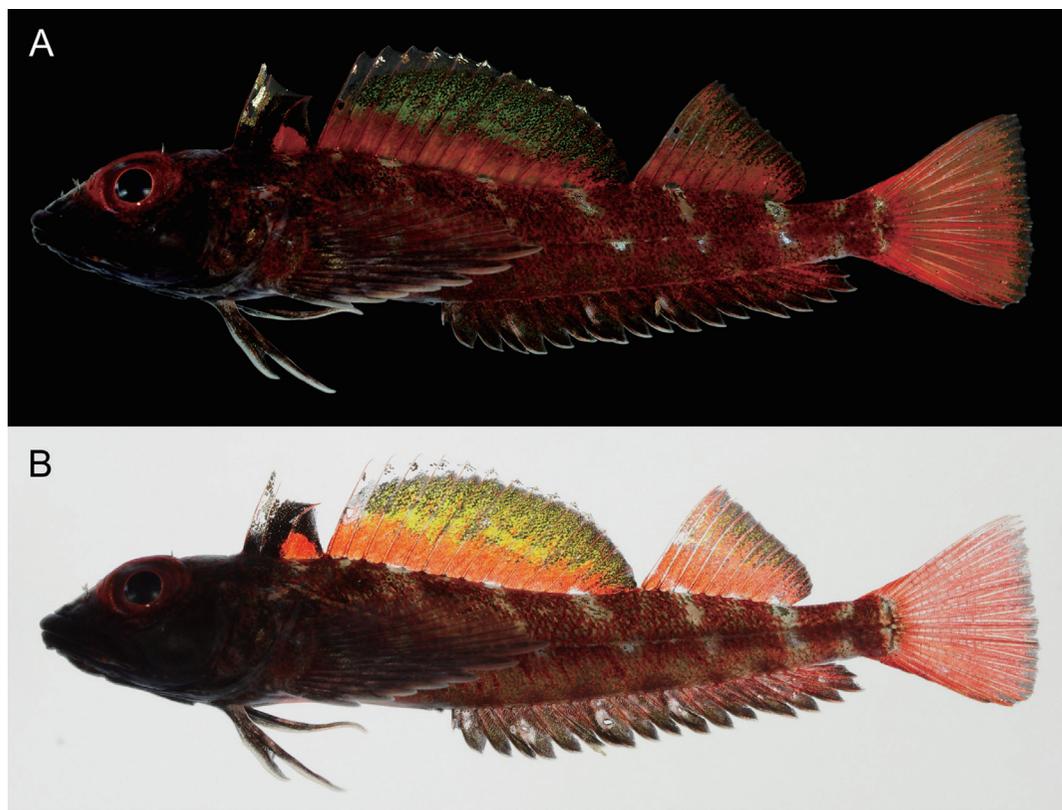


Fig. 1. Fresh specimen of *Helcogramma ishigakiensis* from type locality of this nominal species A–B, KAUM-I. 62836, male, 37.7 mm SL, Ishigaki-jima island, Ryukyu Islands, Japan. Both photographs were taken soon after the fish was captured, A and B images against black and white backgrounds respectively.

(1997) や下條・林 (2000) より前に出版された林 (1993) をそのまま踏襲してしまったために生じた誤りである (本村ほか, 2005). 林 (2000) と Hayashi (2002) が報告したアヤヘビギンポは下顎中央の感覚管開孔数が 5–10 個 (*H. ellioti* では 3–5 個; Holleman, 2007) である. また, 従来 *H. ellioti* はインド・西太平洋に広く分布する (Hansen, 1986) とされていたが, 現在ではインドとスリランカの固有種とされている (Fricke, 1997; Holleman, 2007). 以上のことから林 (2000) と Hayashi (2002) のアヤヘビギンポは *H. inclinata* であると考えるのが妥当である.

本村ほか (2005) はこれらを踏まえた上で, 本来アヤヘビギンポの和名が与えられている *L. m. ishigakiensis* の分類学的位置付けが不明であること, 和名アヤヘビギンポがすでに *H. inclinata* に

対して用いられていること (Fricke, 1997; 下條・林, 2000), および標準和名の起点は原則として「日本産魚類検索 全種の同定, 第二版」[ヘビギンポ科は林 (2000) による] とすることなどの理由から, 和名変更に伴う混乱を避けるため標準和名アヤヘビギンポは *H. inclinata* に対して適用することが妥当であると判断した. その後, 林 (2013) と Tashiro and Motomura (2014) もその措置に従った. *Helcogramma ishigakiensis* は *H. inclinata* と比較し, 下顎中央の感覚管開孔数が 1 (*H. inclinata* では 5–10) であることや, 第 1 背鰭前方は無鱗 (1–2 鱗列をもつ) であることから容易に識別される (Tashiro and Motomura, 2014).

*Helcogramma ishigakiensis* の分類学的位置付けが明らかになった現在, これまでの経緯から本種に再びアヤヘビギンポを当てはめることは標準和

名の安定性を考慮すると不適切である。一方で、益田ほか(1975)がベニモンヘビギンボ *Helcogramma* sp. 2として掲載したカラー写真は、背鰭基底付近と尾鰭が赤色であることから明らかに *H. ishigakiensis* の婚姻色を呈した雄の個体である (Tashiro and Motomura, 2014: figs. 2A–D, 3A, C–D; Fig. 1A–B)。したがって、*H. ishigakiensis* の標準和名にはベニモンヘビギンボを適用するのが妥当であると判断された (Tashiro and Motomura, 2014)。

## ■ 謝辞

本稿をまとめるにあたり、吉田朋弘氏をはじめとする鹿児島大学魚類分類学研究室のみなさまには適切な助言をいただいた。深く感謝の意を表す。本報告の元となった研究はJSPS科研費(19770067, 23580259, 24370041, 26241027, 26450265)、総合地球環境学研究所「東南アジア沿岸域におけるエリアケイパビリティーの向上プロジェクト」、国立科学博物館「日本の生物多様性ホットスポットの構造に関する研究プロジェクト」、文部科学省特別経費—地域貢献機能の充実—「薩南諸島の生物多様性とその保全に関する教育研究拠点形成」、および鹿児島大学重点領域研究環境(生物多様性プロジェクト)学長裁量経費「奄美群島における生態系保全研究の推進」の援助を受けた。

## ■ 引用文献

青柳兵司. 1954. 琉球列島産ギンボ科魚類の新・珍種追記. 動物学雑誌, 63: 239–242.

- Fricke, R. 1997. Tripterygiid fishes of the western and central Pacific (Teleostei). Koeltz Scientific Books, Koenigstein, ix + 607 pp.
- 林 公義. 1993. ヘビギンボ科. Pp. 944–948, 1351. 中坊徹次(編), 日本産魚類検索 全種の同定. 初版. 東海大学出版会, 東京.
- Hayashi, M. 1995. Catalogue of fishes of Yokosuka City Museum (III)—Dr. Aoyagi (Ikeda)'s fish collection. Miscellaneous Report of the Yokosuka City Museum, 20: 1–70.
- 林 公義. 2000. ヘビギンボ科. Pp. 1077–1086, 1600–1601. 中坊徹次(編), 日本産魚類検索 全種の同定. 第二版. 東海大学出版会, 東京.
- Hayashi, M. 2002. Tripterygiidae. Pp. 565–595, 1519–1522. In Nakabo, T. (ed), Fishes of Japan with pictorial keys to the species. English edition. Tokai University Press, Tokyo.
- 林 公義. 2013. ヘビギンボ科. Pp. 1280–1290, 2097–2099. 中坊徹次(編), 日本産魚類検索 全種の同定. 第三版. 東海大学出版会, 秦野.
- Holleman, W. 2007. Fishes of the genus *Helcogramma* (Blennioidei: Tripterygiidae) in the western Indian Ocean, including Sri Lanka, with descriptions of four new species. *Smithiana Bulletin*, 7: 51–81.
- 益田 一・荒賀忠一・吉野哲夫. 1975. 魚類図鑑 南日本の沿岸魚. 東海大学出版会, 東京. 465 pp.
- 松原喜代松. 1955. 魚類の形態と検索. I. 初版. 石崎書店, 東京. xi + 789 pp.
- 本村浩之・原崎 森・瀬能 宏. 2005. ヘビギンボ科クロマスク属2種 *Helcogramma inclinata* と *H. nesion* の標準和名と学名, および前者の北限記録の更新と標徴に関する新知見. *魚類学雑誌*, 53 (1): 106–108.
- 下條敦夫・林 公義. 2000. 日本産ヘビギンボ科魚類の7未記録種. 横須賀市博物館研究報告(自然科学), 47: 39–58.
- Tashiro, S. and Motomura, H. 2014. The validity of *Helcogramma ishigakiensis* (Aoyagi, 1954) and a synopsis of species of *Helcogramma* from the Ryukyu Islands, southern Japan (Perciformes: Tripterygiidae). *Species Diversity*, 19: 97–110.
- 吉野哲夫. 1984. アヤヘビギンボ(ベニモンヘビギンボ). P. 456, pl. 376D. 益田 一・尼岡邦夫・荒賀忠一・上野輝彌・吉野哲夫(編), 日本産魚類大図鑑. 東海大学出版会, 東京.